

適期収穫で、全量2等以上を目指しましょう！



☆ポイント☆

- 1 ほ場ごとの登熟状況と黄葉期を把握し、収穫作業計画を立てる。
- 2 しわ粒発生防止のため収穫適期に達したほ場・団地から直ちに収穫する。
(葉等の損傷が大きいところは、成熟期が早まる可能性があるので注意)
- 3 倒伏程度が大きいほ場では、汚損粒発生防止に努める。

1 当面の栽培管理

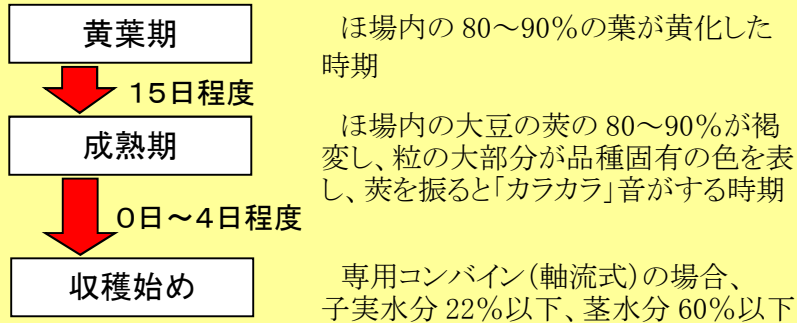
(1) ほ場内の雑草等抜き取り

- 汚損粒の発生を防止するため、収穫前に雑草や青立ち株の除去を徹底しましょう。

(2) ほ場観察による作業計画で適期収穫

- ほ場ごとに大豆の登熟状況（葉の黄化や落葉の状況）を把握し、収穫適期を迎えたほ場から収穫できるよう、作業計画を立て、収穫作業体制を整えましょう。
- 葉などに被害（風によるスレ、病虫害等）を受けたほ場は、成熟期が早まるなど、ほ場間で成熟差が大きくなる場合があります。黄葉期や落葉状況、莢の成熟を把握し、適期収穫に努めましょう。
- 収穫が遅れるとしわ粒（亀甲しわ）が増加します。収穫の目安は成熟期以降に子実水分 22%以下、茎水分 60%以下になった頃です。

【収穫期までのめやす】



岩船地域の黄葉期（推定）

品種	黄葉期
エンレイ	9/25～10/5
里のほほえみ	10/1～10

※H18～R2 普及センター調査から推定
それぞれの黄葉期の日付を中心に、
前後 10 日程度とした。

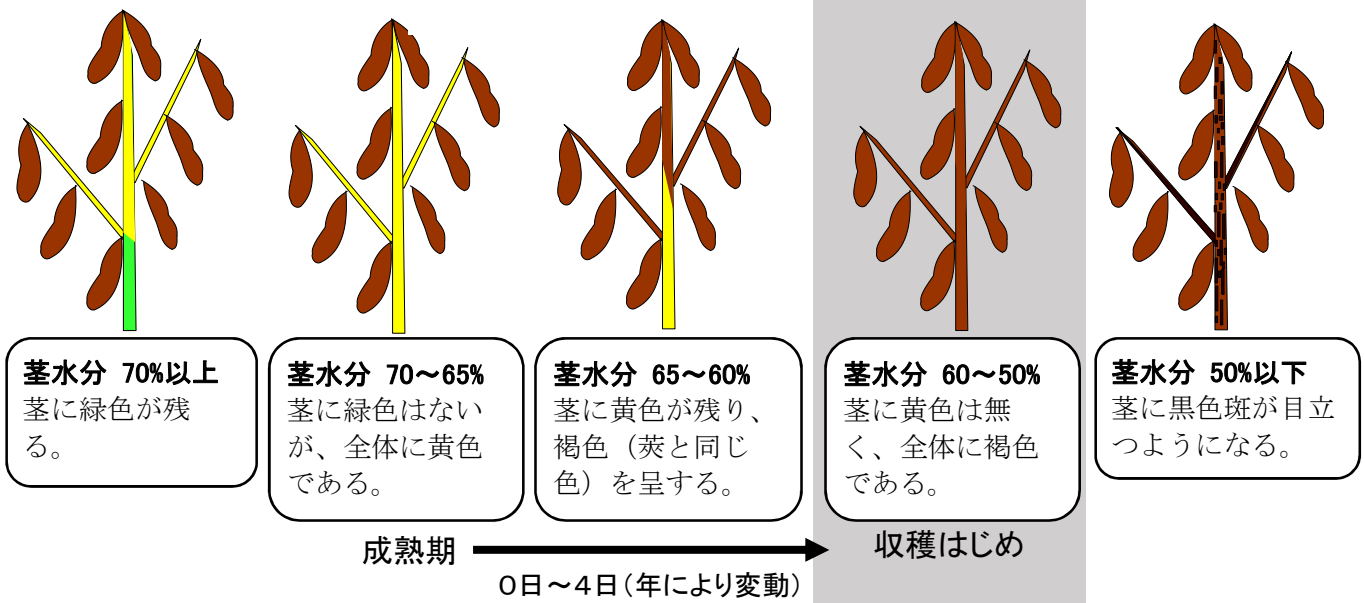
【生育の外観と収穫期のめやす】

大豆の収穫が遅れないように、9月末頃に大豆ほ場の生育状況を確認し、次の表を参考に収穫時期を検討してください。

観察時の外観の特徴	収穫開始までの日数
ほ場内の 20%程度の葉が黄化しているほ場	21 日
ほ場内の 80～90%の葉が黄化しているほ場（黄葉期）	15 日
葉の黄化が進み、落葉が始まっているほ場	12 日
落葉が進み、ほ場内の株の 5 割以上の葉が落葉したと見込まれるほ場	8 日

(注) あくまでめやすであり、生育が旺盛なほ場では表よりも遅くなる場合があります。

【成熟に伴う茎水分の減少と外観の特徴】



2 収穫時のポイント

しわ粒の発生量を軽減するには、成熟期の早いほ場・団地から適期を逃さずに収穫を開始しましょう。

(1) 収穫時期

- 茎水分が高いと汚損粒が発生するため、専用コンバイン(軸流式)では、成熟期以降に子実水分22%以下、茎水分60%以下を目安に収穫を開始しましょう。
- 刈り始めには、被害粒や刈り取りロスを少なくするため、「刈り取り高さ」、「刈り取りスピード」、「脱粒選別・排塵調整」、「汚損粒・損傷粒の発生」をチェックしましょう。
- 収穫晩限は成熟期後15~18日頃までとして刈り遅れに注意しましょう。

- ほ場1筆内で熟期の差が大きい場合は、可能な限り刈り分けを行いましょう。刈り分けができない場合は、ほ場全体の概ね9割以上が適期に達したら収穫しましょう。

(2) 収穫時刻のめやす

- 前日、当日とも晴天の場合 → 11時から17時まで
- 前日が晴れ、当日が曇りの場合 → 11時から15時頃まで
- 前日が雨、当日が晴天の場合 → 不可能の場合が多い

(3) 汚損粒対策

- 極端に低い位置での刈り取りは避け(刈り取りの高さは10cm程度)、倒伏しているほ場は、「刈り取り位置」と「刈り取りスピード」に十分注意しましょう。
- 収穫時に土をかき込んだ場合は、すぐに作業を止め、エンジンを停止し、安全を確認してから土をかき出してください。

(4) 乾燥・調製時のしわ粒対策

- しわ粒発生防止のため、加温乾燥は子実水分が20%以下になってから行い、それまでは常温通風で乾燥しましょう。また、乾燥温度は気温+10℃未満とし、30℃を超えないようにしましょう。
- 粒選機は、被害粒等の混入程度に応じて流量を適正に設定して使用し、被害粒等の除去と粒度(粒大の「揃い」の程度)の向上に努めましょう。

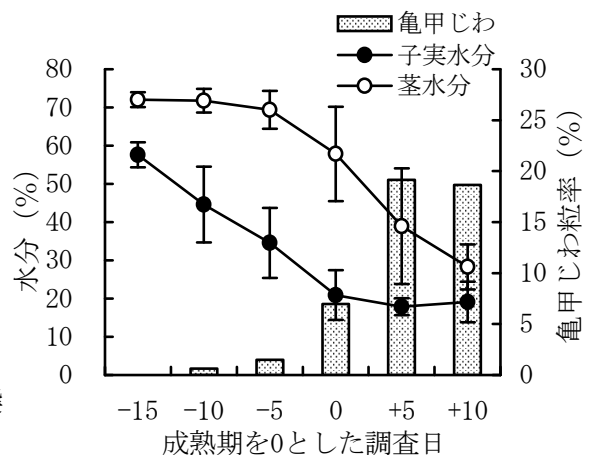


図 植物体水分及び亀甲じわ発生の推移 (2004~2006年平均、縦棒は標準偏差)